

⑫ Int.Cl.<sup>4</sup>A 23 F 3/00  
3/30  
A 23 L 2/38

識別記号

庁内整理番号

6712-4B  
6712-4B  
7235-4B

⑬ 公開 昭和61年(1986)5月10日

審査請求 有 発明の数 1 (全3頁)

⑭ 発明の名称 健康飲料

⑮ 特 願 昭59-211869

⑯ 出 願 昭59(1984)10月9日

⑰ 発 明 者 門 田 一 弘 松原市阿保3-11-6 株式会社宇治門田園内

⑱ 出 願 人 株式会社 宇治門田園 松原市阿保3-11-6

⑲ 代 理 人 弁理士 柳野 隆生

## 明 細 書

## 1. 発明の名称

健康飲料

## 2. 特許請求の範囲

1) 緑茶の葉・茎・枝等の茶材料の粉砕物又は液状物を主体として添加素材の粉砕物又は液状物を混合し、適宜の形状に形成固化せしめてなる健康飲料。

2) 添加素材としてキダチアロエを利用してなる特許請求の範囲第1項記載の健康飲料。

3) 添加素材として薬の葉・茎・根等から選んだ一種又は二種以上のものを利用してなる特許請求の範囲第1項記載の健康飲料。

4) 添加素材として、うちわサボテンを利用してなる特許請求の範囲第1項記載の健康飲料。

5) 緑茶材料と添加素材との混合物を線状に押出し、これを粒状に切断してなる特許請求の範囲第1項又は第2項又は第3項又は第4項記載の健康飲料。

## 3. 発明の詳細な説明

本発明は、緑茶の味を殺さず且つこの中に他の有用な成分を共存させて緑茶のうま味と他の材料の効用とを併存せしめてなる飲み易い茶に関する。

従来、各種の生薬を利用した健康茶が提供されているが、夫々は殆んど茶褐色に変色した状態であったり、又その他の茎、枝等を利用して用いている関係上、これらの健康食品即ち健康茶を飲用したときには、茶褐色に変色した部分の味が溶出し、元来緑茶の如き美味な飲用を期待するもののこれを得ることができず、生臭さや苦み等を感じさせる健康飲料用の茶が多量存在する。

本発明は従来のような健康茶の状態に鑑み、添加する各種成分の味や色を殺すことなく、これを緑茶素材の上にのせ、しかも緑茶の味を主体として苦みや変色した色が付いておらず溶出状態では緑色の良質な健康茶を提供せんとするものである。

本発明は、この目的を達成する為に、緑茶の葉・茎、枝等の茶材料の粉砕物又は液状物を主体とし

て添加素材の粉砕物又は液状物を混合し、適宜の形状に形成固化せしめることにより達成した。

即ち、本発明を更に説明するに、本発明の健康茶は、先ず緑茶材料を主体とし、この材料中に添加すべき各種他の材料を分散せんとするものである。主体とすべき緑茶材料は前記の如く、緑茶の葉・茎・枝などから選択される。好ましくは、この材料中で水分含有量が高く、しかも味の良好な緑茶の葉を用いる。この緑茶の葉・茎・枝などの一種又は二種以上のものを選択し、これを粉砕して得た粉砕物又は粉砕することによつて水分含有量の高いときには、それによつて形成される液状物、更には該液状物として理解されるこれら各茶材料から抽出した抽出液又は抽出エキスを含有する液状物又は粉茶を主体とし、この緑茶材料中に各種添加すべき他の素材を前記緑茶材料と同様に粉砕物とし、又は粉砕した状態で水分が多いときには、その液状物を添加混合して、もつて一つの泥状茶素材を形成し、この素材を押出し機などで適宜な形状例えば線状に押し出し、これを更に自然

ボテン、クコ、柿の葉などにおいても同様手段が採用され混合対象とされる。

而して、このように本発明においては、緑茶の葉・茎・枝等の茶材料の粉砕物又は液状物を主体とし、添加素材、例えば<sup>キダチ</sup>アロエや<sup>うり</sup>蓮、サボテン等の素材の粉砕物又は液状物を混合し適宜の形状に形成固化せしめてなるものであるところから、この茶を飲用すれば、茶をベースとして味わうことができ、そしてその中に各種添加素材の生薬としての利用を可能ならしめ、常日煩悶しんだ味のものと、健康に供しうる生薬成分をとることに抵抗なく、むしろ良質な味の健康飲料を提供できるものである。又このような茶においては、主体とする緑茶材料は緑色であり、この主体中に緑色の添加素材を添加したときには、形成固化した本発明に係る健康飲料、即ち健康茶は、緑色状態を維持し、見た目にも商品価値の高いものを得ることができる。

次に、実施例を記載して本発明を更に説明する。

(実施例1) 緑茶の葉5gを水洗し、これを

乾燥又は強制加熱乾燥、更には減圧乾燥等の適宜な乾燥手段、特にこの押し出し物中に含有する緑色成分を変色させない乾燥手段、好ましくは前記の乾燥手段中の自然乾燥や減圧乾燥の手段を用いて乾燥したのち、これを更に望ましい小粒状物などに粉砕等して得るものである。

ここに添加素材としては、各種の生薬成分が利用される。例えば、キダチアロエ、蓮の葉・茎・根・種子、うちわサボテン、オ、パコ、柿の葉、クコの葉・実等種々の生薬材料を未乾燥状態又は乾燥状態にあつても、その緑色状態が維持されている状態での材料が選択され、これらをそのまま粉砕物とし、又は適宜な液体例えば水分を添加したり、又は未乾燥状態のものであれば、そのまま粉砕することによつて液状物を形成してなるものである。例えば、添加素材としてアロエ、とくにキダチアロエを利用したときには、該アロエの水洗したものを、そのまま粉砕機で粉砕し、ミキサー等で液状物としたものを前記茶材料に混合することが考えられる。同様に<sup>キダチ</sup>アロエ以外の<sup>うり</sup>蓮やサ

ミキサーで粉砕し泥状化したものの中にキダチアロエを同様にミキサーで液状化したもの5gを添加し、両者を混合するとともに、この混合物を押出し機で線状に押し出し、これを減圧状態で減圧乾燥して固化させ、次いで出来上つた線状押し出し物を裁断機で長さ10mm程度に裁断した。この線状微細化した本発明の茶を通常の茶と同様に急須に入れ湯を添加して飲んだところ、<sup>キダチ</sup>アロエ単独では苦みがあり、一般向きではないものが、この添加状態のものでは緑茶の葉の味で<sup>キダチ</sup>アロエの苦みが消され、緑茶を飲用するのとほぼ等しい味を維持しながらキダチアロエの飲用を可能とした。尚、茶の葉の液状物に添加するアロエの液状物は<sup>キダチ</sup>アロエの苦みの影響する状態を考慮すれば緑茶に対し約1.5倍程度まで添加することが可能であつた。しかし、その苦みの発生を耐えるならば、重量比で2倍程度までの含有を可能とした。

(実施例2) 実施例1と同様に、うちわサボテン並びに蓮の葉を用いて本健康茶飲料を作成したところ、うちわサボテンでは緑茶に対し2倍近

量までの添加を可能とし、通常の薬では20重量%～  
100重量%の添加が好ましいものであることが知  
見された。

特許出願人 株式会社 宇治門田園

代理人 弁理士 柳野 隆生 

BEST AVAILABLE COPY